

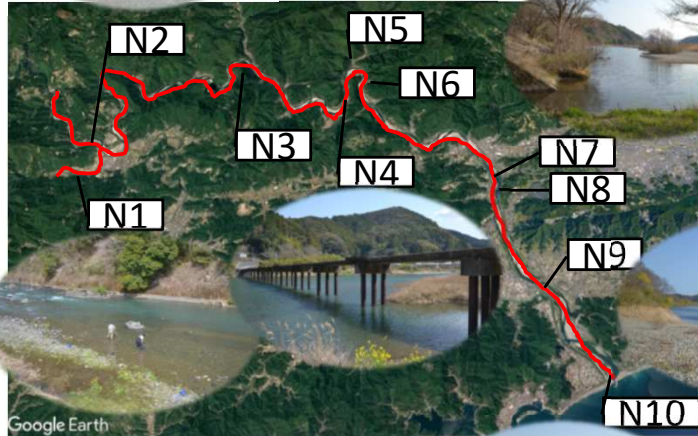
仁淀川におけるヌマエビ類の分布

高田光紀・川嶋優希・横井 瞳・斉藤知己(高知大学海洋生物研究教育施設)

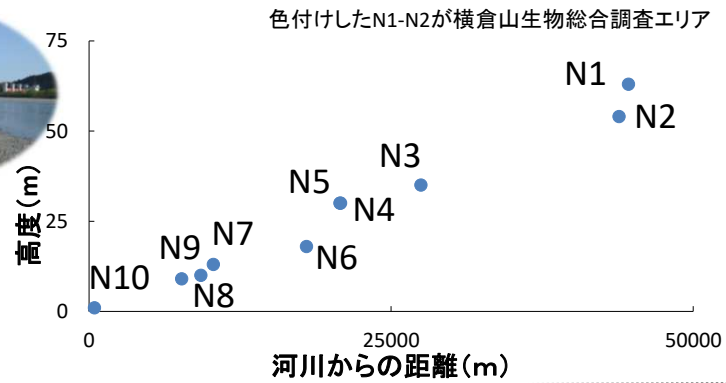
ヌマエビ類について

ヌマエビ類とは、ヌマエビ科 (Atyidae) エビ類の総称で、体の大きさが1～数cmほどの小型エビ類である。河川、湖沼、池などの淡水域に生息するが、種ごとに嗜好する微細環境(水温・水流・光量等)が異なり、棲み分けていると考えられる。幼生時に海で成長する両側回遊型の種類が多いが、一生を淡水で過ごす陸封型の種もある。雑食性で、藻類、デトリタスおよび生物の死骸などを食べる。ヌマエビ類には観賞種のほか、希少種も含まれ、生息環境の豊さの指標となりうる生物である。当研究室では、2015年以降、仁淀川流域の10地点においてタモ網による採取を行い、ヌマエビ類の分布を調べている。

調査地

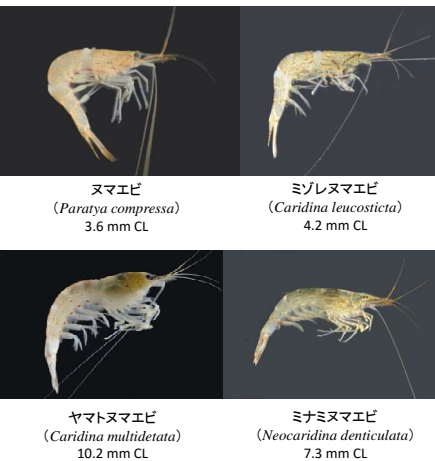


地点	地名	高度 (m)	河口からの距離 (m)
N1	坂折川 (越知町越知乙)	63	44650
N2	小浜キャンプ場 (越知町横皇南)	54	43860
N3	上八川合流点 (越知町黒瀬)	35	27470
N4	名越屋沈下橋 (日高村名越屋)	30	20770
N5	勝賀瀬川 (いの町勝賀瀬)	30	20820
N6	クラウド前 (いの町鹿敷)	18	18000
N7	宇治川合流点 (いの町百石町)	13	10290
N8	八田堰 (いの町八田)	10	9260
N9	仁淀川橋下 (いの町八田)	9	7670
N10	河口大橋上 (高知市春野町)	1	450



結果

2015～21年に仁淀川で採取されたヌマエビ類



地点	ヌマエビ <i>Paratya compressa</i>	ミゾレヌマエビ <i>Caridina leucosticta</i>	ヤマトヌマエビ <i>C. multidentata</i>	ヒメヌマエビ <i>C. serratiostris</i>	ミナミヌマエビ <i>Neocaridina denticulata</i>
N1					+
N2					+
N3	+				
N4		+			+
N5	+		+		
N6	+				
N7					+
N8	+	+	+		+
N9	+	+		+	
N10		+	+	+	

色付けしたN1-N2が横倉山生物総合調査エリア

まとめ

今回の調査では、3属5種のヌマエビ類の出現が確認された。横倉山生物総合調査エリアからは、ミナミヌマエビのみが確認されている。ただし、調査地点を広範にし、かつ頻度を高めることで、さらに数種を確認できると考えられる。

このたび、仁淀川流域の広範な調査地点から確認されたミナミヌマエビは、本調査で確認されたヌマエビ類で唯一、大卵少産型の繁殖様式によって淡水域で再生産を行う種である。他種はいずれもが幼生時に海で成長する両側回遊型の種であり、仁淀川の中上流域にある幾つかのダム、およびそれより上流には生息しえない。

今後、横倉山生物総合調査エリアでのヌマエビ類と環境の調査を詳細に行い、ミナミヌマエビが優占する要因を明らかにしたい。